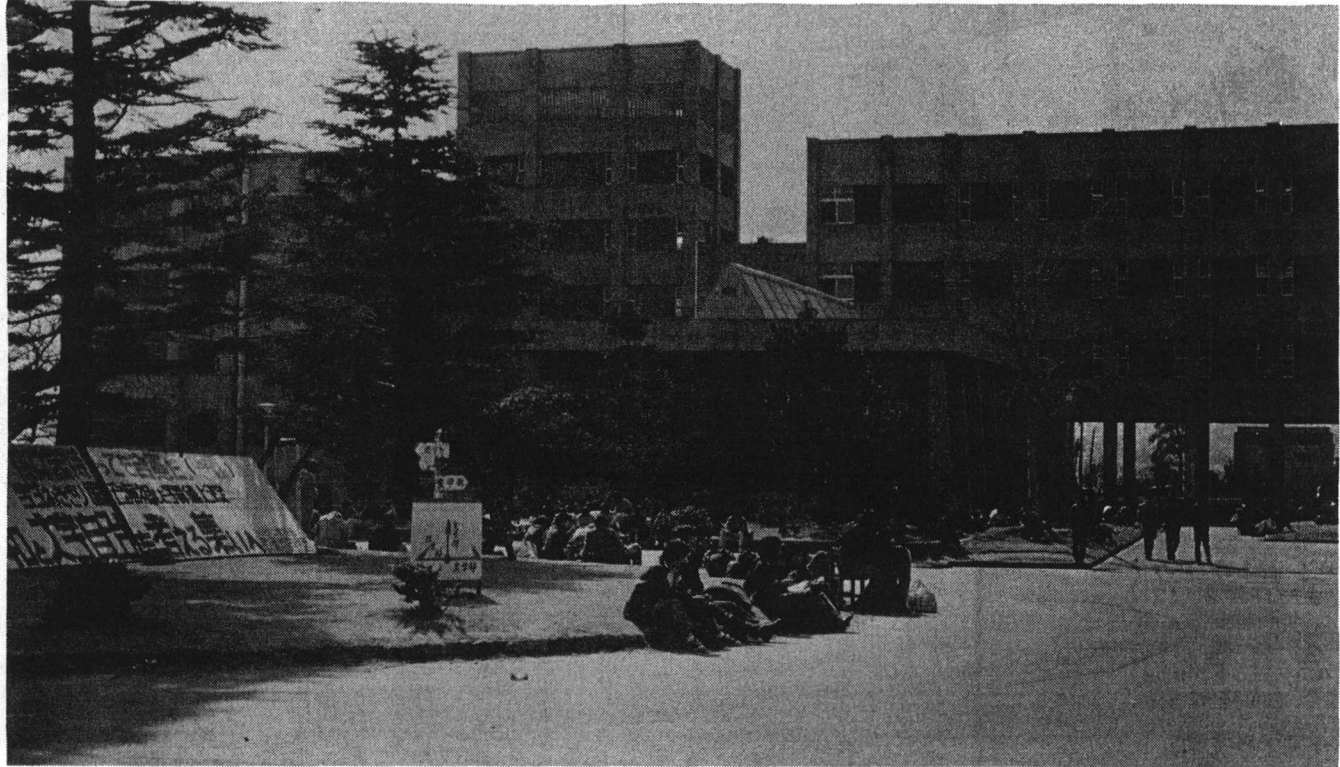


六條会報

第二号 発行
神戸市灘区六甲台町一
神戸大学農学部内
りく 六 会
(神戸大学農学部同窓会)
印刷 新写植出版

特集 農学部創立30周年記念

—記念事業の準備すすむ—



祝賀行事は 来春五月十九日(土)に

母校創立三十周年に際して 同窓会・その意義と展望

六條会々長 西川 欣

「母校」という言葉に、なぜか甘ずっぱいひびきを感じるの、私一人ではないと思います。それはたぶん、そこに色々な形の青春の過去がぬりこめられているからだと思います。母校こそ、長い一生の中で最も多感な時代を過ごした「青春のまなびや」であると共に、これから死ぬまで、人生を歩みつづける際の「心の拠り所」であると思います。

その母校、わが神戸大学農学部が、昭和二十四年、篠山に兵庫県立農科大学として創設されてより、国立移管、六甲台移転、神大の農学部として、ここに創立三十周年を迎えることとなりました。真にこの同窓のいなりです。

世に「三十にして立つ」(論語)とか、「At thirty I stood firm」とか云われ、古今東西三十年という年輪の重みはひとつの大きな区切りであると共に、自力で飛躍する発展期であるわけですね。

この記念すべき時に、同窓会はいかにあるべきか、その意義と展望につき所信を述べたいと思います。

まず、同窓会はただ単に学生時代のなつかしさだけで集まるものではないと思えます。今の社会を情報化社会と呼ぶならば、同窓会は立派な情報交換の中心であると思えます。同窓会の原点として会員名簿の発行、そして同窓会報の発行は、それによって、母校の現況や同窓の活躍範囲が知らされ、ある人は直接仕事に結びつく人間関係を得ることもあるでしょうし、力強く生きる友人、先輩、後輩の姿をみて刺激を得る人もあるでしょう。同窓会が母校とのつながりのパイプ役として、同窓会活動が活発になればなる程、会員にとって母校を活用する機会が多くなるでしょうし、先生方にとっても卒業生の頻繁な来訪は、教育、研究に大きな励みとなることは間違いないと思っております。

同窓会のもう一つの大きな役割は、母校に対する協力、どういふ形で出来るかという事です。

同窓会名簿や会報を出すだけにとどまらず、さらに有意義なことを一つ一つ積み重ねて行くことです。すなわち、単に懐古主義に陥ることなく、後輩や母校やさらに社会のために役立つ事業を、はじめはたとえ、ささやかであっても進んで行くことこそ、これからの同窓会の方向だろうと思っております。

同窓会は母校あつての同窓会です。母校の発展が同窓会の発展であり、社会での同窓生の活躍が母校の評価となつて帰つて来ます。この母校への協力の出発点として、六條会は、農学部創立三十周年記念協賛事業の柱として「学術振興基金」の設立を計画しております。内容は他の記念事業計画と同様別掲してありますのでそちらをご覧ください。

この創立三十周年の発展期に六條会記念事業の成功の上に、母校へ、さらに社会へ役立つ同窓会活動が軌道に乗りますよう、格段のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

記念事業は同窓会が実施するわけですが、逆に記念事業が同窓会を育てると確信しております。

三十年の歴史と伝統を受けつぎ、すぐれた人材を育て上げる農学部でありつづけるように、同窓会も母校と一体となつて努力しつづけるようではありませんか。皆様のご多幸、ご健闘をお祈り致します。

創立三十周年を 迎えるに当り

農学部長 河本 正彦

六條会員の皆様、如何お過ごしですか。

わが神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学は、昭和二十四年五月十日、丹波篠山の学舎で第一回入学式を迎えました。

初代学長三宅捷先生を中心に全国各地から多くの人材が教官として集まりました。創立当初は農学科一学科のみで、学生数は三十数名に過ぎませんでした。以来早や三十年に近い歳月が流れ、来年五月には創立三十周年を迎えようとしています。

昭和二十四年五月二十日の開学式は多くの来賓、教職員、新人生の出陣のもとに厳粛にとり行われたが、三宅学長は次のような式辞を述べておられます。

「県知事はじめ県当局、文部当局、大学設置委員、京都大学農学部の諸先生、地元の各位の基大な御盡力により本日ここに開学式を催すに至つたことを心から感謝するとともに、本大学の完成に努力することを誓す。……」

本大学の現時局下においての使命は食糧問題の解決であり、そのための直接的な方法としては農産物の増産とこれら農産物の合理的利用と合理的分配とでなければならぬ。

本学当面の使命として本県を対象として農業全般の進歩発展に貢献するため農学の学理を研究し、応用し、教養高き農学者、農業技術者の養成をなすことであり、ひたすらこの使命の達成に努め、やがては全世界に立派な情報交換の中心であると思えます。同窓会の原点として会員名簿の発行、そして同窓会報の発行は、それによって、母校の現況や同窓の活躍範囲が知らされ、ある人は直接仕事に結びつく人間関係を得ることもあるでしょうし、力強く生きる友人、先輩、後輩の姿をみて刺激を得る人もあるでしょう。同窓会が母校とのつながりのパイプ役として、同窓会活動が活発になればなる程、会員にとって母校を活用する機会が多くなるでしょうし、先生方にとっても卒業生の頻繁な来訪は、教育、研究に大きな励みとなることは間違いないと思っております。

同窓会のもう一つの大きな役割は、母校に対する協力、どういふ形で出来るかという事です。

同窓会名簿や会報を出すだけにとどまらず、さらに有意義なことを一つ一つ積み重ねて行くことです。すなわち、単に懐古主義に陥ることなく、後輩や母校やさらに社会のために役立つ事業を、はじめはたとえ、ささやかであっても進んで行くことこそ、これからの同窓会の方向だろうと思っております。

同窓会は母校あつての同窓会です。母校の発展が同窓会の発展であり、社会での同窓生の活躍が母校の評価となつて帰つて来ます。この母校への協力の出発点として、六條会は、農学部創立三十周年記念協賛事業の柱として「学術振興基金」の設立を計画しております。内容は他の記念事業計画と同様別掲してありますのでそちらをご覧ください。

この創立三十周年の発展期に六條会記念事業の成功の上に、母校へ、さらに社会へ役立つ同窓会活動が軌道に乗りますよう、格段のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

記念事業は同窓会が実施するわけですが、逆に記念事業が同窓会を育てると確信しております。

三十年の歴史と伝統を受けつぎ、すぐれた人材を育て上げる農学部でありつづけるように、同窓会も母校と一体となつて努力しつづけるようではありませんか。皆様のご多幸、ご健闘をお祈り致します。



創立三十周年 記念事業紹介

六條会員の皆様にはすでに御存知のことと思いますが我が母校、神戸大学農学部は来年で創立三十周年を迎えます。これを記念し、来春（昭和五十四年）五月十九日に創立記念行事が種々取り行われます。六條会々員諸兄姉の参加を心からお待ちしております。

記念行事の詳細は下記に担当者からの紹介がありまして、学部の事業としては、六條会々員の皆様にはすでに御存知のことと思いますが、我が母校、神戸大学農学部は来年で創立三十周年を迎えます。これを記念し、来春（昭和五十四年）五月十九日に創立記念行事が種々取り行われます。六條会々員諸兄姉の参加を心からお待ちしております。

記念式典

記念式典、研究報告記念号出版、植樹が、また学部と同志会との共催で、祝賀園遊会が開かれます。同志会の単独事業としては、同志会名簿の発行、絵はがき、記念写真集の発行などが企画され、同志会の一層の発展を期するために学術振興基金の設立が企画されております。六條会々員各位の御協力を切望する次第であります。

園遊会

創立三十周年記念行事のオープニングセレモニーは三十年の歴史をふりかえるとともに農学部のますますの発展を祈る記念式典です。これは学長をはじめ学内外の関係者多数を迎え、五月十九日（土）農学部において開催されます。（中村）

創立三十周年記念事業の一環として、来年五月十九日（土）に挙行される記念式典に引き続き、祝賀園遊会の催しが予定されております。

目下、学部（近藤、西羅）ならびに同志会（東、藤井）の委員がそれぞれ具体的な計画を検討中です。

現教官はもとより、できるだけ多くの旧教官もお招きしたいと考えております。多くの同志生のご参加を得て、恩師と共に母校の発展を心から祝える会にしたいと念じております。

当会には学生の音楽グループの協力を依頼して、ムード作りにも努める積りであります。

来年三月には正式の案内状を差上げますので、この機会にぜひご来学を乞う次第です。（東）

記念植樹

来年五月の農学部創立三十周年記念事業に向けて、本年頭より学部内で実行委員会を組織する事になり、委員の出張のため不在であった小生が農業生産工学科からの委員に決められた。

四月七日第一回の実行委員会が委員長である河本部長の招集によって開催された。実行委員の中で卒業生は小生一人であるため、学外会員諸兄姉の御期待にこたえる重責を感じている。この第一回実行委員会で記念事業予定項目と大体の分担を決め、記念植樹事業を小生が分担する事になった。

学舎増築や博士課程新設等の急務があり、学部教職員は今夏多忙を極めており、そのため七月末現在未だ第二回目の実行委員会を持つに至っていないが、今年末を目途に計画を終了する事になっている。

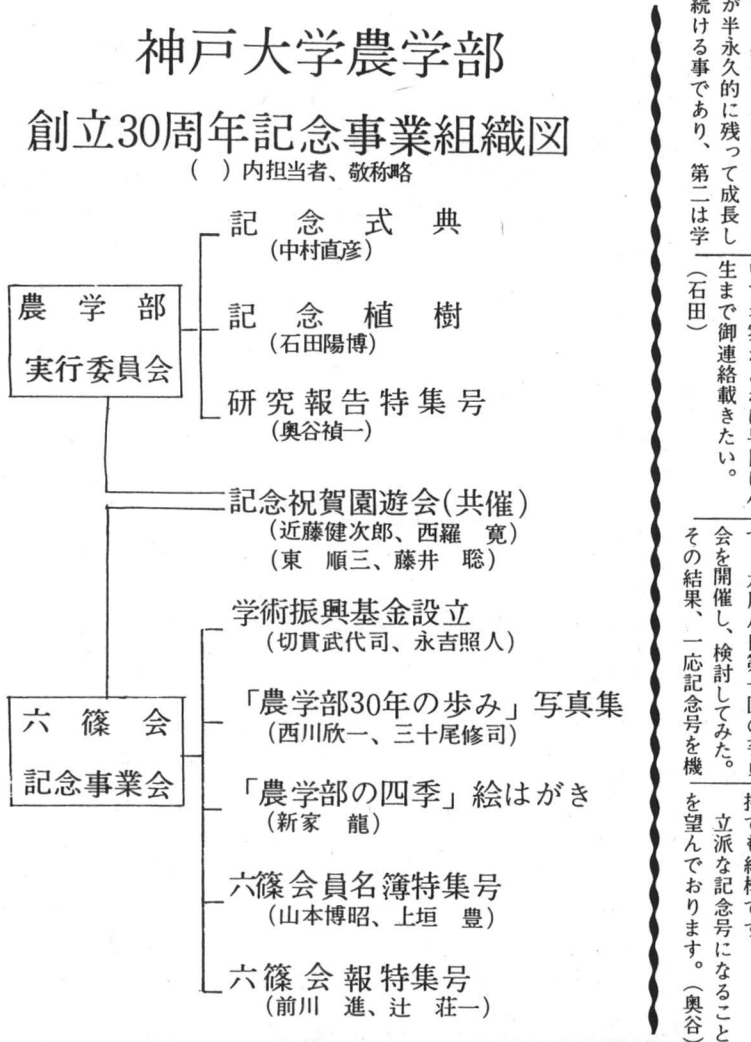
記念植樹が他の事業と性格を異にする第一は、それが半永久的に残って成長し続ける事であり、第二は学部全体（石田）

研究報告三十周年

学部長を委員長にして、各学科代表による三十周年記念行事準備委員会が持たれ、引き続き実行委員会へと移行した。私は年寄りの故に、植物防疫学科選出の実行委員におされた。準備委員会の段階で五十四年度に発行される神戸大学農学部研究報告を三十周年記念号とする事が決定され、実行委員会において、私が担当することになった。準備委員会の段階から、既に二、三の案は出ていたが、実行委員会となったからは、実際に実現可能な方向で考えることになった。

そこで、私一人ではよい知恵も出ないので、同志会から二名、すなわち短大と農大から一名づつ、あとは他の学科から三名をおねがいすることにして、次の五名の方で、編集委員会を結成した。同志会側、切貫武代司、王子善清の両氏、大代司、水野利雄、居垣千尋、沢野 稔の三氏にお願いして、九月八日第一回の委員会を開催し、検討してみた。

その結果、一応記念号を機立派な記念号にすることを望んでおります。（奥谷）



祝 農学部創立30周年

<p>技術の商社</p> <h2>日製産業株式会社</h2> <p>大阪営業所</p> <p>〒530 大阪市北区西天満4丁目11番22号 TEL 06 366 2554</p>	<p>木屋農学器械其他全般</p> <h2>眞陽理化学器械株式会社</h2> <p>〒534 大阪市都島区東野田町1丁目17番7号 TEL 06 352 2746 (代) 8</p>	<p>一般事務用諸印刷・頁物</p> <h2>中村印刷株式会社</h2> <p>〒657 神戸市灘区友田町3丁目2番3号 TEL 078 841 0911</p>	<p>カラー現像所</p> <h2>株式会社アート・センター</h2> <p>〒657 神戸市灘区灘南通1丁目3番29号 TEL 078 882 1141 4</p>	<p>明日の計測をリードする!</p> <h2>三栄測器株式会社</h2> <p>神戸営業所</p> <p>〒652 神戸市兵庫区西多聞通1丁目3番131 TEL 078 575 8358</p>
---	---	---	---	--

六篠会

学術振興基金

について

同窓会には二つの目的があります。第一は会員が互いに親睦を図ると同時に、お互いに修養の機会を作つて自身の向上を図ること、第二は母校を援助して後進を誘掖することです。この第二の目的のために三十周年を期して学術振興基金を設立するわけです。会長の挨拶にもありますように、わが母校、神大農学部は、今や総合大学院博士課程設置計画に明るい可能性が認められると聞きます。すでに伝統ある凌霄会(経済・経営・法学部同窓会)やKTC振興会(工学部同窓会)など他の神大の同窓会は多額の基金で活動しており、

一朝一夕に、わが六篠会に大きな基金が出来るわけではありませんが、今回の三十周年を出発点として基金づくりを開始し、農学部の発展に寄与したいわけです。

基金が設立されれば、農学部における教育研究活動に対する援助の適正、公平を期するための専門委員会を六篠会役員会の中に設けて活動を開始したいと思ひます。

主な事業をあげれば、
一、学術講演会や研究セミナーの主催。
一、六篠会学術賞の設立。
一、教官の海外渡航援助。
一、教育活動援助。
一、科学技術調査研究援助。
一、学会開催費補助。
一、定年退官教職員謝恩費。
その他有効公正な農学部援助に活用出来るわけです。

以上のべました学術振興基金の設立やそのほか三十周年記念事業の計画は、別紙同

記念絵巻書の発行

について

これまで学内外から希望の声が高かった絵巻書が、創立三十周年を記念し「農学部の四季」と題して発行される運びとなった。原稿の撮影は本学畜産学科の伊藤和彦先生を頼り、八枚組の豪華版になる予定である。その内容を紹介しますと、①篠山城北深風景(青山六万石の城下町、これが兵庫農科大学発祥の地である)、②農学部正面、③農学部の春、④農学部の秋・三宮、⑤神大を眺む、⑥秋日に映える研究棟、⑦桃の花咲く附見の夜景、⑧神大全景の八枚である。題名は各絵巻書に邦文および英文で印刷し、広く外国の友との交流

封の「趣意書」でお願いいたしますように、いつにか、つて皆様のご基金(一口、五千円)によるわけでございます。

六篠会員名簿

特集号の発刊

について

六篠会も来年創立三十周年を迎え、会員の一人として御同慶の念に堪えませんが、今回の名簿発行も、来年度に予定される数々の記念事業の一貫として計画されたものです。農大六十六回卒の上垣豊氏と私が名簿編集の元締に任命され、いささか困惑しながらもその準備を進めていた次第です。同窓会名簿の使命は、すべての会員の住所、勤務先等を正確に把握し、お知らせすることとその活用の容易さにあると思われまふ。特

に迅速かつ正確に把握するかが最も重要なこととなりまして、それを貫徹するために、専任職員を持つ同窓会の事務組織と資金の裏づけが必要となります。発展途上にある我が六篠会に、現在のところ残念ながらそれらの力量に乏しく、今回の名簿作成に当たって、学部内各研究会を中心とした現農学部各研究室所属の先生方の御協力による原簿訂正回覧方式をやむなく採用致しました。

記念写真集の発行

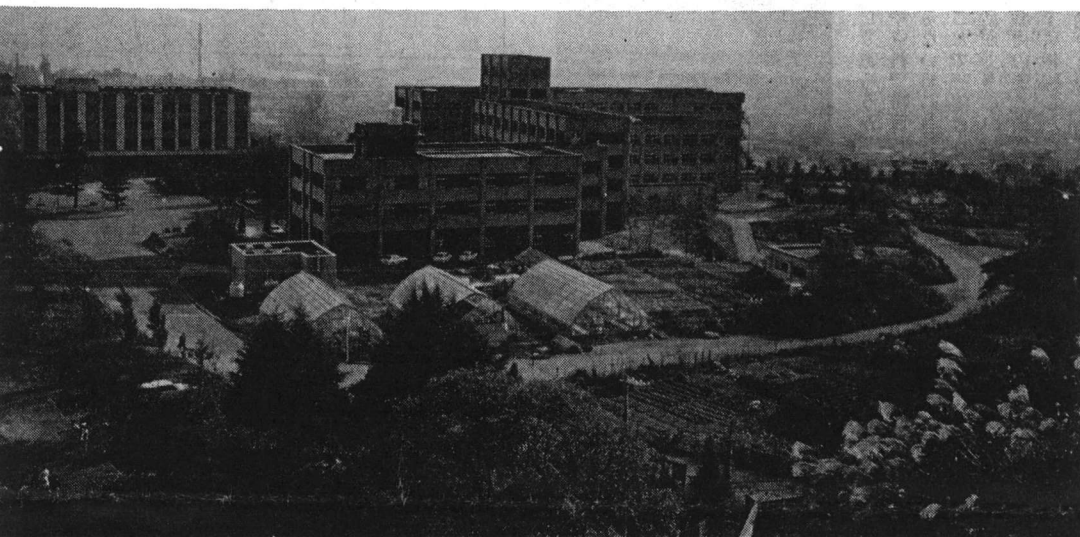
について

六篠会報創刊号においてお知らせしましたように、創立三十周年を記念して同窓会から「思い出の写真集」(仮題)を来年度の祝賀式典に合わせて発行する運びとなりました。写真の募集を致しましたところ多くの方々から貴重な写真を寄せいただき、五百枚以上の原図を集めることができました。ご協力誠に有難うございました。

八月に入つて編集にとりかかつておりますが、現在教授であられる先生の助手時代の写真や自然環境に恵まれた篠山の町の写真、さらには当時の農大生気質を思わせる農大祭の写真など、見ていて飽きない写真ばかりです。

今回のこの写真集は、「年表・農学部二十年の歩み」、「農学部今昔」、「農大時代」および「神大農学部」等から構成されております。特に、「農大時代」の学内風景、学生生活、農大祭、および篠山の風土と町並みは今のうちに記録に残しておく必要があると思われ、重点を置くつもりであります。「神大農学部」の内容は、神大生としての学生生活が主になりますが、今まで一般の卒業生の方々には目に触れる機会がなかった学舎の建設経緯なども盛り込まれる予定です。

何分にも篠山時代を知らない編集者でありますので、古き良き時代をどこまでお伝えできるか自信がありませんが、折角お寄せ下さった数々の写真をできるだけ生かすように努力しようと考えております。どうか発行されました折にはお求めいただき、今一度我が青春時代を思い起こしていただきたいと思います(念願する次第です。三十尾)



作者の言葉
写真芸術を志す者にとつて、その作品を絵巻書だと評されることは最大の侮蔑である。芸術写真は表現の単純化が要求され、絵巻書は説明的に沢山の状況を盛り込むからである。このアンチテーゼに挑戦すべく編集子の依頼を引受けた。一番苦労したのは学園の雰囲気を出すことであり、港の見える六甲台の丘に建つこの学舎の美しい環境を更に強調して表現することであった。絵巻書のでき栄えについては皆さんのご批判をえたい。

同窓諸兄弟に次の事をお願い致します。御協力の程をこの紙面をかりてお願い申し上げます。御面倒でも六篠会宛に御連絡下さい。一、六篠会名簿発行についての御意見、御希望をお寄せ下さい。(山本)



祝 農学部創立30周年

理化学硝子器機製作販売

佐藤薬理商会

〒655 神戸市垂水区南多聞台5丁目1の21
TEL 078-782-7248

分析・計測・研究機器全般

宮野医療器株式会社

〒650 神戸市生田区楠町5丁目24番地の3
TEL 078-371-2121

ニコン顕微鏡・コーガク

株式会社 コーガク
神戸支店

〒650 神戸市生田区相生町5丁目174
(神戸駅前ビル)
TEL 078-681-9451

米・雑穀・完全飼料

上田米穀飼料店

〒657 神戸市灘区下河原町通2丁目1の4
TEL 078-861-0766

名簿・年史センター

新写植出版KK

〒537 大阪市東成区神路1-7-12
TEL 06-974-0481

ブラジル在住の卒業生諸君と会う

佐藤 孝
(神戸大学名誉教授)

七月から九月の二か月前、ブラジル中部の三州（ミナスゼライス、ゴイアス、この二州だけで日本の三・五倍の面積がある）、エスピリトサント）の開発調査に参加した。調査は政治色の濃いもので、運輸関係者が主体で、農業技術は私人、丁度乾燥季で、亜熱帯地域といっても一面の枯野とユーカリ樹の植林を見るだけであり、農業や植物に興味をもつ人達の構成でもなかった。調査そのものは全く無味乾燥の毎日であったが、そのなかで、一つ、行く前からも期待し、楽しみにしていたこと

とは、ブラジルに移住した農大の卒業生諸君と会うことであった。サンパウロにはわずかに三日しか滞在しなかつたが、栽培の室出身の田中正義君が連絡してくれて集った五人の諸君と一日ゆつくりと会えたことは、本心に楽しかった。上野、小早川両先生や他の卒業生諸君の動静を聞くことが出来た。あとで滞在地のベロオリゾンテで、ブラジリアの近くで五〇〇ヘクタールの農園をもつ岸本 晟君（第十二回生）から電話してきてくれた元気な声を聞くことが出来た。お二人の先生と卒業生諸君は優れた

実行力で幾多の試練を乗り越えて、元気で活躍していることをお伝えします。集った五人の諸君は次の通りです。

農学科
葛原正雄君（第七回生）
須永忠雄君（第九回生）
田中正義君（第十回生）
松尾紀敏君（第十一回生）
畜産学科
謙谷 昭君（第十二回生）

なお、この五君の最近の住所、勤務先等は六篠会の方に通知しておきますので、もしお知りになりたい方は会の方にお問合せ下さい。

新米教師のあいさつ

松中 昭
(植物防疫学科 教授)

今年の一月一日付で農薬学講座を担当することに相成りました。阪大工学部醸酵工学科を卒業後、三年間大学院（旧制）に残り、国家公務員試験（農芸化学）を受けて農林省へ入り、その後昭和三十年、その後二十二年間を農業技術研究所で過ごし、イネや植物病原菌の呼吸の電子伝達系の生化学から、除草剤の作用機構・選択殺草性、あるいはカプトエビなどによる雑草の生物学的防除、果ては大気汚染感知のための指標植物利用技術の開発まで、間口をひろげてやってきました。

六甲台にまいりましてからは、前任者、鈴木直治先生のとをうけて従来の研究を続けていく一方、除草剤や植物生長調節剤の作用機構・選択性機構、それに新農薬の開発にも努力する所存であります。また、農業と環境との関係にも留意し、この方面の技術者、研究者の養成にも力を盡したいと思っております。

鴻巣で十二年間すごした経験を生かして、泥くさい仕事もどんどんとり入れていく一方、海外での経験や交友関係を活用して、国際的感覚をもった人材の育成にもっとめたいと考えております。他方、生化学的手法をもつたよりどころとした農業の基礎的研究にも意欲をもちやっております。

この一年間は新米教師、講義の原稿づくりだけでも大へんですが、おいおい地が出てくるかと思っております。



昭和53年度 定期役員会報告

会則第9条に基づき昭和五十三年度の定期役員会は四月二十二日（土）午後一時より神戸大学農学部応接室において役員の過半数の出席を得て開催されました。まず昭和五十二年度の経過報告ならびに会計報告が各担当役員よりなされ承認されたあと、役員会の選出について会長より間近かに記念行事を控えたいことかから本年も引き続いでお願いしたいとの強い希望で、全員留任することが決定されました。

つきに昭和五十三年度の事業計画に移り、主に創立三十周年記念事業計画を中心に各担当委員から出された具体案について審議され、承認されました。

記念事業を成り遂げるために熱意にあふれた意見の交換がなされ、予定時間をはるかにオーバーして閉会となりました。

なお、本年度は記念行事を控えて来年一月二十日前後に臨時役員会が開かれることになっております。

住所変更は御連絡を!!

三十周年記念六篠会名簿の完全化のため、会員の皆様方の住所、勤務先に異動が生じた時には、左記の要領で異動届をお出し下さる様、御協力下さい。

記載事項 氏名、卒業年次・学科、現住所、勤務先・電
話等の変更事項
送り先 神戸市灘区六甲台町一 神戸大学農学部内
六篠会名簿係 山本博昭 宛
※昭和五十四年一月二十日までであれば名簿への記載変更が可能です。
※異動通知は、前回（昭和五十年）発行の同窓会名簿末尾に添付された私製葉書を御利用下さると便利です。

昭和53年度 六篠会役員名

- 会長 西川 欣一 (A1)
 - 副会長 東 順三 (C1)
 - 常任幹事
 - 庶務 新家 龍 (C5)
 - 辻 莊一 (Z12)
 - 会計 切貫武代司 (K1)
 - 永吉 照人 (A13)
 - 三十尾修司 (A神6)
 - 名簿 能宗 康夫 (C2)
 - 上垣 豊 (C16)
 - 監事
 - 浦岡 睦 (A7)
 - 山本 博昭 (A12)
 - 幹事
 - 久保 吉正 (C2)
 - 前川 進 (A3)
 - 今村幸三郎 (A4)
 - 進藤 恭 (Z5)
 - 北浦 義久 (A6)
 - 山川 昇 (P16)
 - 入江 克美 (P17)
 - 大喜多健彦 (Z17)
 - 山木 和人 (T神4)
- (以上20名)

昭和52年度一般会計決算報告書

収支対照表			
前年度繰越金	2,321,411	本年度支出金	3,313,300
本年度入金	1,102,296	次年度へ繰越金	110,407
本年合計	3,423,707	合 計	3,423,707
収入の部			
前年度繰越金	2,321,411	予 算 額	2,321,411
会 費	1,082,000	決 算 額	1,009,000
金 利	0		5,296
金 収	35,000		88,000
預 金	20,000		1,000
雑 合	3,458,411		3,423,707
支出の部			
農学部教育活動援助費	100,000	予 算 額	0
一般 事務	100,000	決 算 額	100,100
一 交	100,000		0
一般 事務	400,000		474,400
一 会	50,000		25,460
謝 務	50,000		105,060
謝 務	20,000		1,000
謝 務	10,000		0
謝 務	300,000		300,000
謝 務	28,411		0
謝 務	2,300,000		2,307,280
謝 務	110,407		110,407
謝 務	3,458,411		3,423,707

監査の結果誤りなきことを認めます

浦 岡 睦 山 本 博 昭

昭和52年度特別会計決算報告書

予 算 額 決 算 額		
前年度繰越金	2,300,000	2,307,280
本年度一般会計より繰入れ	300,000	300,000
預金利子	23,222	23,222
合 計	2,600,000	2,630,502

監査の結果誤りなきことを認めます

浦 岡 睦 山 本 博 昭

昭和53年度一般会計予算書

収入の部		
前年度繰越金	110,407	予 算 額
入 会 費	1,028,000	備 考
預 金 利 子	5,000	53年度新入生 5000 × 162名
雑 合	6,000	52年度卒業生未納者 2000 × 109名
合 計	1,149,407	名 簿
支出の部		
教育、研究、援助費	100,000	予 算 額
農学部活動援助費	100,000	備 考
一 般 事 業	100,000	オリエンテーション、大学祭等
一 般 事 務	450,000	会報、新入生、卒業生への趣意書郵送料、コピー、振替手数料等
会 議	30,000	
謝 務	100,000	
謝 務	20,000	
謝 務	15,000	
謝 務	10,000	
謝 務	24,407	
謝 務	200,000	
謝 務	1,149,407	

昭和53年度特別会計予算書 (六篠会学術振興基金準備金)

予 算 額	
前年度繰越金	2,630,502
本年度一般会計より	200,000
預金利子	136,600
合 計	2,967,102